

秋田県横手市におけるオープンデータ化推進とデータ活用基盤構築による観光DX推進モデル実証事業

現状及び課題、解決策と目指す姿

- 横手市は冬季の旅行者数が少なく、またインバウンドの多くは市内ではなく、他の地域に宿泊している。
- 観光関連データの活用が進んでおらず、旅行者のニーズに即した商品、サービスの開発や販促が十分に行われていない。
- 本事業では、地域の観光関連データをオープンデータ化し、宿泊、飲食事業者が保有するクローズドデータと組み合わせることで分析、活用ができる基盤を構築する。これにより各事業者の現場において需要予測や価格設定、販促施策の立案を行えるようにする。
- 実証を通じて、データドリブンな経営判断が現場レベルで実現され、消費拡大と生産性向上による稼げる地域、産業モデルの構築を目指す。

事業概要

冬季の観光需要の低迷や通過型観光の課題を抱える横手市では、地域の観光関連データをオープンデータ化し、宿泊、飲食事業者が保有する予約、決済、アンケート等のクローズドデータと組み合わせる「横手版DMP」を構築する。これにより、旅行者の動向やニーズを可視化し、現場スタッフが自らデータを活用して施策を立案、実行できる環境を整備することで、データ活用を通じた消費の拡大と生産性向上を両立させる地域活性化モデルの実現を目指す。

取組地域： 秋田県横手市

コンソーシアム名： 横手市観光データ・AI・イノベーションアライアンス

代表事業者： 一般社団法人横手市観光推進機構

実証内容

- 地域の観光関連データを収集、整備し、オープンデータ化
- オープンデータを活用したキャンペーンや価格設定、人員配置の最適化等の実施による生産性向上、消費拡大

目標値

KGI 観光消費増加額(1,000,000円)

KPI 宿泊事業者、飲食店等の施策実施数(5件)

